

# 令和2年度 学校自己評価システムシート（県立深谷第一高等学校）

|        |   |
|--------|---|
| 目指す学校像 | 1 広い視野を持ち、自ら学び続ける意欲と態度を持った人間を育成する。<br>2 文化やスポーツを愛し、人と人との絆を大切に作る人間を育成する。 |
|--------|---|

|      |   |
|------|---|
| 重点目標 | 1 高い志を育み、授業研究を推進し、学習指導の充実を図り、高い学力を身に付けさせる。<br>2 キャリア意識の向上と目標に向かって最大限の努力を促す進路指導を推進する。<br>3 社会の一員としての自覚と責任感、規律ある態度を育成する。<br>4 地域との連携や外部教育力の活用を通じ、教育活動を更に充実する。 |
|------|---|

|     |   |             |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上)  |
|     | B | 概ね達成(6割以上)  |
|     | C | 変化の兆し(4割以上) |
|     | D | 不十分(4割未満)   |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

|     |          |    |
|-----|----------|----|
| 出席者 | 学校関係者    | 4名 |
|     | 生徒       | 3名 |
|     | 事務局(教職員) | 7名 |

| 学校自己評価 |  |                          |   |  |   |  |
|--------|--|--------------------------|---|--|---|--|
| 年度目標   |  |                          |   | 年度評価(2月1日現在)   |   |  |
| 番号     | 現状と課題  | 評価項目                     | 具体的方策   | 方策の評価指標  | 評価項目の達成状況   | 達成度 次年度への課題と改善策  |
| 1      | 【現状】<br>新聞や図書館を活用した指導、グループ学習等を取り入れたアクティブラーニングにより授業改善が見られる。<br>【課題】<br>自学自習の定着に継続して取り組む必要がある。さらに教員一人ひとりが生徒の活動を意識した授業改善を推進する。                        | 主体的・対話的で深い学びの実践(授業改善の推進) | ①年次研修の研究授業や授業公開週間中の互見授業ならびに研修会等による指導力向上<br>②定期考査を活用した指導の工夫<br>③ICTを活用した授業の実践    | ①年次研修や授業公開での授業研究と研修会の実施状況<br>②定期考査後の振り返りの実施状況<br>③ICT機器(PC・プロジェクター・タブレット等)の授業での活用状況                                | 教科や学年で連携し、個々の教員が授業改善に取り組んだ。<br>①②教員が自己評価シートに明確化し、実践<br>③全学級において Google Classroom に「クラス」を作成。授業・部活動も含め生徒への連絡や指導に活用              | A<br>・今年度予定していたタブレットやWi-Fiが未整備の状態にある。次年度はさらにICT機器を効果的に使用した授業を推進し、生徒の情報活用能力を高める。<br>・「家庭学習の習慣が身につけている」と回答した保護者が54.0%(R1 47.9%)と増加したが、自己学習時間はあまり伸びていない。さらに自学自習の定着に継続して取り組む必要がある。         |
|        |  | 自学自習の定着                  | ①教科・学年間の連携を深め、予習・復習の徹底と家庭学習時間の確保<br>②教科の特色を生かした課題等の工夫<br>③生徒のニーズに合わせた課外補習等の開設   | ①自己学習時間の増加<br>②プリント学習(課題)の増加<br>③補習日の設定と課外講座等への参加人数の増加   | 生徒の意識向上に向け、課題や考査を活用した。<br>①自己学習時間が全学年で微増<br>②生徒の実態に即した課題を提示。ほぼ全員が期日に課題を提出<br>③課外講座等への参加者130人に減少                               | B  |
| 2      | 【現状】<br>e-ポートフォリオの活用やGTEC対策により目標が明確になり成果が見られる。進路実績は向上しているが、生徒の多様な進路実現に向け、きめ細やかな指導が求められる。<br>【課題】<br>現状に満足せず、更に高い目標を設定し、それに向かって努力する姿勢を育て、地域の期待に応える。 | キャリア教育の推進                | ①入試改革に対応する3年間を見通したキャリア教育の実施<br>②ガイダンス機能の充実<br>③保護者への情報提供                        | ①スタディサポート・進路の手引きの活用によるキャリア教育の視点で進路指導計画策定、進路指導の実施<br>②分野別ガイダンスや卒業生の進路体験発表会等の企画・実施<br>③ホームページや進路だよりの閲覧等、保護者への情報の浸透状況 | 外部講師を活用し、年間を通し計画的にキャリア教育を推進した。<br>①②年間計画どおり実施し生徒の意識が向上<br>③アンケート結果「進路情報は保護者まで届いている」76.7%(R1 73.1%)                            | A<br>・e-ポートフォリオの活用により生徒一人ひとりの目標が可視化し明確になった。さらに充実させることにより生徒の変容に繋げる。<br>・「総合的な探究の時間」における探究活動を進め、生徒の主体性を育成していく。<br>・一般受験クラスの生徒への指導方法を検討する。「進路だより」を活用し、意欲ある生徒のモチベーションを維持し、入試に対応可能な学力を育成する。 |
|        |  | 生徒の進路への関心・意欲の向上          | ①個別の進路相談、面接指導の充実<br>②2学年から一般受験クラスを設置<br>③「総合的な探究・学習の時間」を利用した外部教育力の活用            | ①進路相談、面接指導の充実による現役進路決定率の向上<br>②一般受験クラスの一般受験生の増加<br>③e-ポートフォリオと連鎖した事後の振り返りによる生徒の意識の変容                               | 生徒の希望進路実現のため、きめ細かな指導を実践した。<br>①現役進路決定率74.8%(R1 7同値)<br>②一般受験クラス一般受験生16名<br>③行事ごとに振り返りを実施し、目標を明確化                              | A  |
| 3      | 【現状】<br>保護者の本校の部活動や学校行事への満足度は非常に高い。また、学校行事に生徒が主体的に取り組んでいる。<br>【課題】<br>部活動加入率・定着率を向上するとともに規範意識を更に高め、自律を促す。  | 部活動等の活性化                 | ①部活指導の一層の充実<br>②体験入部の工夫・改善<br>③学校行事の充実と発展                                       | ①1年生全員加入と定着率の増加<br>②部活動体験の実施回数・人数<br>③生徒による文化祭等の自主的運営状況  | 感染症拡大防止から制約を受けながらも生徒が主体的に行事等に取り組んだ。<br>①1年生全員加入達成。部活動加入率92.8%(4月)91.3%(10月)<br>②部活動体験16部23回263名参加<br>③文化祭中止により「文化活動週間」を生徒会が企画 | A<br>・部活動加入率、定着率ともに増加している。部活動を本校の教育活動の1つの柱とし、部活動体験による生徒募集をさらに推進する。<br>・BYOD回線設置に伴い、必要となる校内規定を改定するとともに生徒主体の「スマホのルールづくり」について並行して進める。<br>・自転車乗車マナーを含め、交通事故防止を徹底する必要がある。                   |
|        |  | 規範意識の向上                  | ①自転車運転マナーの組織的指導<br>②スマホの適切な使用時間管理<br>③制服(セーター・ベスト)の検討                           | ①登下校時のマナーアップの状況<br>②生徒主体による「スマホのルールづくり」への取組状況<br>③実態に応じた改善案の作成状況   | 年間を通し、組織的に指導した。<br>①学期当初の登校指導週間における指導<br>②県教委から発出される基本指導方針を確認後、進める予定に変更<br>③生徒指導部が検討を開始                                       | B  |
| 4      | 【現状】<br>ホームページの閲覧件数が飛躍的に伸びており、本校への関心の高さが伺える。<br>【課題】<br>さらに組織的に更新を進め、必要とされている情報を発信していく。働き方改革を考慮し、学校説明会や中学校訪問等に検討を加え、効果的な生徒募集を継続する。                 | 組織的な広報活動と生徒募集の充実         | ①学校内外の説明会の実施<br>②組織的なホームページの更新や最新の教育活動内容(大学入試改革、学校行事、部活動等)の発信<br>③保護者アンケートの継続実施 | ①学校説明会・個別相談会参加者の本校に対する理解の変化<br>②ホームページを更新した教員数<br>③保護者アンケートの実施・集計・報告   | 8月の学校説明会を中止とし、予定実施回数を増やして対応した。<br>①説明会参加者対象調査「本校への理解が深まった」と回答した中学生100%<br>②18名と微増<br>③学校自己評価に活用                               | B<br>・保護者アンケートではWebページのアクセスは伸びたが「学校からの情報発信は充実している」と回答した保護者が69.4%(R1 76.1%)であった。発信内容等を検討していく。<br>・新たに深谷市との連携により「認知症サポーター養成講座」を開講した。今後も外部の教育力を活用し、生徒の視野を広げる。                             |
|        |  | 地域との交流及び校内外の美化の促進        | ①地域交流活動への積極的参加<br>②PTA・生徒会主導による学校内外の美化活動の推進<br>③協定校との連携強化                       | ①地元小・中学校等との交流や深谷市関連行事への参加人数<br>②生徒、PTAによる美化活動の実施状況<br>③協定校との連携事業実施状況   | 中止となった交流事業も多かったが内容を変更し、生徒の達成感を高めた。<br>①33名参加(R1 184名)<br>②年2回の花の植替を実施<br>③今年度は中止  | B  |

| 学校関係者評価  |         |
|--|---------|
| 実施日  | 2月9・10日 |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等  |         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨時休業があったが、工夫により授業が質と量ともに例年同様に進んでいることは、すばらしい。</li> <li>・休業中も学習が継続でき、良かった。課題の増加や家庭学習の習慣の重要性が理解できた。</li> <li>・ICTの面では、これからの教材開発や効果的な利用等が課題となる。BYODについても情報セキュリティや端末を所持していない生徒への対応・設定について検討が必要であろう。</li> </ul>  |         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンスなど充実していて良い。</li> <li>・スタディサポートを活用することは有意義である。</li> <li>・生徒一人一人の多様な進路希望を理解し、先生方に指導をお願いしたい。</li> <li>・一般受験クラスに一般受験を利用したい生徒を積極的に受け入れて欲しい。</li> <li>・保護者アンケートからも進路情報が保護者に届いていることがわかる。「進路だより」の発行数を聞き、以前からすばらしいと思っている。</li> </ul>                           |         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の加入率・定着率が向上しており、学校の努力の成果である。</li> <li>・深一は部活動が盛んで自立心が高いと感じる。</li> <li>・グローバルな時代にスマホ等に対して、どのように指導していけばいいのか難しい問題である。健康面からも指導が必要である。</li> <li>・「高校生の自転車通学者が危険」という声が耳に入る。一人二人の生徒の行動が学校に対する印象につながってしまう。</li> <li>・制服については機能性や女子のスラックスについても考えて欲しい。</li> </ul> |         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの更新が早いので情報がすぐに伝わる。コロナ禍でも様々な面で頑張っている。</li> <li>・幼小中高のあるこの地域で「中山道クリーンキャンペーン」等、地域で力を合わせて実施していきたい。</li> <li>・生徒会としてさらに地域との活動ができると良いと思う。</li> </ul>   |         |

